



新年の開門を待つ役員（12月31日、順慶寺境内にて 岡川経康氏撮影）

# 順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺  
2021年(令和3年)

2月号  
VOL.328

## ◆◆ コロナ禍の修正会 ◆◆

順慶寺の山門が改築されて以来、大きな行事がある際に、扉を閉めてから開門することになっている。昨年はコロナの関係で多くの行事が自粛となったが、令和三年が明けるにあたって、新年の開門と除夜の鐘、本堂でのお勤め(修正会)をきちんとし、心新たに新年を迎えた。

### ◇ 支持しない人のことも思い遣る ◇

今月の釈尊の言葉は、スリランカ、タイなどで親しまれている經典『①スッタニパータ』からの出典です。

「誰であれ、他人を欺いてはならず  
軽んじてはならず  
怒りや憎しみから

苦しめてはならない」(七九偈)

(『スッタニパータ』「慈しみの経」より)

一月二十日、アメリカ第四十六代大統領に、民主党のジョー・バイデン氏が就任しました。就任前の選挙戦では、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、トランプ前大統領と熾烈な争いとなり、僅差で競り勝ったバイデン氏の勝利を、トランプ氏が選挙違反があったとして認めず、暴徒化したトランプ支持者が連邦議会を襲撃したほか、トランプ氏も大統領就任式に出席しませんでした。

このように後味の悪い、バイデン氏の大統領就任でしたが、その就任演説では、  
「今や、政治においては過激主義や白人至上



### 今月のブツダの言葉

誰であれ、怒りや憎しみで

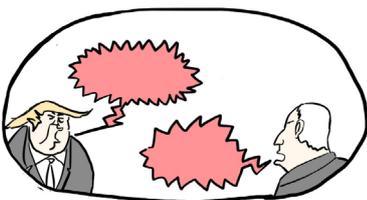
苦しめてはならない



主義、国内テロリズムが台頭しており、私たちはこれに立ち向かわなくてはならないし、打倒します」  
と、強い意志を表明了。  
そして、最も印象的だった言葉は、

「結束がなければ平和はなく、いがみ合いと激しい怒りしかありません。(中略)皆さんに約束します。私はすべてのアメリカ人の大統領になると。すべてのアメリカ人の。そして、私を支持した人と同じくらい私を支持しなかった人のためにも懸命に戦う」  
とした、不支持の人への思いやりの言葉でした。

### 若院のテーマカット NO.23



◇怒りを鎮める智慧◇

二〇〇一年、アメリカのグローバリゼーションによって広がった格差に対して、イスラム過激派はアメリカに対し同時多発テロを興しました。テロを受けた側のブッシュ大統領は、首謀者とみられるアルカイダを攻撃する際に、「平和と自由が勝利するのだ。この軍事行動は我々のテロに対する戦いの一部である。今日、我々はアフガニスタンに照準を合わせているが、戦いはもっと幅広いのである」として、アフガニスタンのタリバン政権を一ヶ月あまりで崩壊させました。その後、攻撃の照準をテロ支援国家「ならず者」のレツテルを貼られた、イラクに向けました。こうした報復による戦いには、さ

①【スタニパータ】

セイロン(スリランカ)に伝えられた、いわゆる南伝仏教のパーリ語経典の下部に収録された経典のこと。「スタタ」はパーリ語で「経」の意、「ニパータ」は「集まり」の意、あわせて『経集』をあらわす。『タンマパダ』は初学者が学ぶ入門用テキストであるのに対し、『スタニパータ』はかなり高度な内容を含んでいるため、必ずしも一般

らなる報復が生まれ、ブッシュ大統領を悪とみなし、イスラムの聖戦(シハード)として、自爆テロなどの報復が相次ぎました。

ときに、アメリカのバークレーに本部を置く仏教団体BPF(Buddhist Peace Fellowship)は、こうした状況に、ある提言をしました。それは、報復の連鎖に対し、どちらかを正し

いと邪見することを問題視し、「私たちは一つの敵を選びぬくことで自己反省を回避している。自己反省がなければ、自分たちに降りかかった恐るべき行為に関する自らの宿業上の責任に目を向けることはできない」と、自己反省を促したのです。

私たちは、怒りのもととなる自らの迷妄に目を向け、自己反省し、他を苦しめず、智慧を得て生きていくことが肝要だと分かります。

②【BPF】

1978年に設立。アメリカ・バークレーに本部を置く、仏教徒の国際ネットワーク。ベトナム戦争後、米国内の核兵器と軍国主義について話し合い、平和をもたすために、仏教の観点から、思いやりを持って取り組む必要があるとして設立された。



先日、なぜ我々は聖教を勉強するのかという講義を受けました。五帖九通目の『御文』に「一切の聖教というも、ただ「南無阿弥陀仏」の六字を、信ぜしめんがためなり」というところなりとあります。聖教を勉強するのは「信じる」ことが肝要と蓮如上人は言われています。信じることをそっこのけで知識だけを蓄える勉強をしていないか、と自分に問われるような講義でした。

佳帆子 いよいよ高校生最後の試験。卒業までひと息。

念仏を欲ぶ人 妙好人の世界 [第101回] 《味おうてくれ》 ものだねきちべえ 物種 吉兵衛 (9)

《聞きが強い故にコワイ》

堺の妙好人・吉兵衛。「私は死んでいけません」という課題を背負って、三年に亘る遍歴に出て、首尾良い答えを得られず、旅から帰ってからも、近くのお寺にたびたび聴聞に出かけました。よく聴聞にあがったお寺は、河内の高松というところにあつた、称念寺。住職に、不審に思うことを様々に尋ねていくうち、称念寺同行に加えてもらうまでになりました。しかし、吉兵衛があまり強く質問

をするので、称念寺の住職もついに根を上げてしまいます。『吉兵衛語録』2には、次のように記してあります。「御院主様(称念寺)に不審なことを段々お尋ね申すと、吉兵衛はあまりに聞きが強い故に、他力を失うかと思うとコワイと申された。それを聞いて、こんな者の聞きが強いくらいで他力を見失うような小さな他力であるまい。このようなことを申す坊さんについて随分聞いてもあかぬと、その場の方が変わったデ。」吉兵衛は、その真剣さのあまり、相手が信心を獲ているか、本当のことを見ているか、それを素早く感じ取っていました。ですから、いつしか称念寺の住職にとつても、同行にとつても、けむたい存在になっていききました。

《第十回 聖教を学ぶ理由》

「お母さん、お弁当あと一回だよ」高三の娘から、二月を前にひと言。自分としては、もうひと月だから、頑張らなくちゃ、と心づもりをしていたので、拍子抜けしてしまいました。長年子供たちのお弁当を作ってきましたが、「いよいよお店も閉店か」という寂しさと少しの安堵感の入り交じった気分です。決して立派なお弁当ではなく、変わり映えのない上に、お箸を入れ忘れたり、折角作ったお弁当を渡し損ねるハプニングも数度ありました。いつも時間に追われ、大慌てでお弁当を作り、子供たちには、後ろめたい気持ちでした。それでも、残さずお弁当を食べられて、三人の子供たちには、すばらしい思いをさせてもらったな、と感謝でいっぱいです。

子と共に ポンコツ 弁当

コロナ自粛の中

異例の修正会を開催

さる十二月三十一日の大晦日の深夜から、一月一日元旦の未明にかけて、新年恒例の修正会が開催され、コロナ禍で異例の形での実施されました。

例年、大晦日の夜、紅白歌合戦を見てから、順慶寺の年越し勤行（修正会）に出かけるという人が沢山あり、いつも本堂は満堂になります。

しかし、今回は、新型コロナウイルスが拡大し、国から、年末年始は外出し、家で静かに過ごすして下さいと異例のお願いが出て、日本中の神社仏閣への初詣が自粛ムードとなりました。近頃の神社等も、新年の行事を自粛すると発表される中、順慶寺にお



修正会での勤行（岡川経康氏撮影）



自粛の中での本堂参詣（岡川経康氏撮影）



自粛の中での除夜の鐘（岡川経康氏撮影）

いても、役員でさかんな議論がなされました。しかし、コロナ禍だからこそ、気持ちを新たにする必要があるので、意見から、十分な感染対策をして実施することとなりました。当日、本堂の行事をYouTubeで生中継する中、深夜十一時半に山門の開門、十一時四十五分から、除夜の鐘と本堂でのお勤めを同時に開始しました。本堂では、間隔を空けた三十席のイス席を準備。十分な換

気をするため、一部の窓を開けて進めたため、折からの年末寒波に震えながらの行事となりました。通常、修正会の本堂での司会はありませんが、ネット配信のため、急遽、役員が司会をしました。修正会では、正信偈のお勤め、御文の拝読、住職、役員挨拶がありました。今年は、本堂でのお屠蘇、お汁粉の接待、焼香は中止。かわりに温かい缶のお汁粉や甘酒を配りました。また、今年もお楽しみで、お菓子袋を配りましたが、そこにしたためた住職の言葉は、次の通り。「離れても ご縁感ずれば いつも心はあたたかい ご縁を見出し、ご縁を喜ぶ一年にしよう」

一月度護寺会物故者

釋徳悦

12月28日寂 久木田己徳(90)

泉田町 久木田真治様の父

朋友院釋巨教

1月2日寂 塚本 巨(89)

今川西組 塚本充様の父

釋尼喜昌

1月3日寂 酒井喜久枝(94)

名古屋市 酒井正人様の母

慈照院釋響護

1月5日寂 岡本 護(74)

市場上組 岡本雄一様の父

釋樂邦

1月8日寂 本間邦彦(86)

大府市 本間直明様の父

浄楽院釋光照

1月16日寂 池田光治(91)

大久屋前川組 池田滝也様の父

編集部短信

◆修正会を初配信―今年の修正会の模様を、若院が中心でYouTubeにて初配信した。現在でも、上記QRコードから修正会の試聴は可能。



◆責役四役会開催―一月十九日、責役四役会を開催。令和三年度の護寺会の大まかな方針を決定。方針は、二月十八日、責役総代会にて正式決定し、護寺会総会に上程の予定。

◆教化委員会に正副委員長―一月十九日、責役四役会にて、順慶寺教化委員会にこれまで設けられていなかった、正副委員長を選任すること一致。選出は、二月二十日、教化委員会にて。

編集雑記

地味な記事ですが、「妙好人の世界」が先月で百回を迎えました。この記事は、妙好人と呼ばれる人が多く集まる都会ではなく、片田舎で、信心を喜んで生き抜いた人たちの記録です。妙好人のことをみると、リモートをして繋がらなくとも、片田舎でも、お念仏を称えて心豊かに生きることができると実感します(住)。

そろそろ大学の秋学期が終わります、少し長めの春休みになります。お経の読み方や卒論に向けての勉強など、やらねばいけないことはありますが、だからと春休みを過ごしてしまおうだと危惧しています(若)。



# 2月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	月		
2	火		
3	水		
4	木		木-1
5	金		
6	土		
7	日		
8	月		
9	火		
10	水		
11	木		木-2
12	金		
13	土		
14	日		
15	月	観音堂報恩講	
16	火		
17	水		
18	木	定例責役総代会(19:00、順慶寺)	木-3
19	金		
20	土	教化委員会(14:00、順慶寺)	
21	日		
22	月		
23	火		
24	水		
25	木		木-4
26	金		
27	土		
28	日	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺にて内勤め)	
3/1	月		

## 2月行事内容 詳細

2月18日(木)

午後7時、順慶寺本堂

年二回実施される、責役総代会の第二回目。通常、この会で、順慶寺によって運営している事業の会計報告と総代会からの要請事項の決定がなされます。

また、今回は、新型コロナウイルス拡大のため、令和三年度の護国寺事業の運営をどのようにしていくかを検討する予定です。

## 教化委員会

2月20日(土)

午後2時、順慶寺本堂

順慶寺の例会等の役員は、順慶寺における教化を担うため、教化委員に任命されています。一年に一度、年初に教化委員会を開催し、一年の教化の方針、内容などを話し合います。

令和二年度は、新型コロナウイルスとの関係で、ほとんど例会が自粛となり、休会状態となっていました。

令和三年度、例会の再開を目指すとともに、ウイズコロナ、アフターコロナをどうするか、話し合う予定です。

## お知らせ

●護国寺役員年番会自粛について  
例年、新年度に入る直前の三月に、新年度の活動計画などを協議説明するために、護国寺役員年番会を開催していますが、本年は、新型コロナウイルスのため、百名近い人数を招集することは不可能と判断し、自粛することとしました。なお、令和三年度年番さんには、年番のしおりを配布する予定です。

●春季講座の自粛について  
富士松真宗教団で実施している、春季講座(二月十七日例年、新年度に入る直前の三月に、新年度の活動計画などを協議説明するために、護国寺役員年番会を開催していますが、本年は、新型コロナウイルスのため、百名近い人数を招集することは不可能と判断し、自粛することとしました。なお、令和三年度年番さんには、年番のしおりを配布する予定です。

●本誌校正委員の退任について  
長らく本誌の校正委員を務めて頂いた、加藤キヨ子さん、中根典枝さんが、高齢のため退任されました。お二人には心より感謝申し上げます。なお、後任は立てず、寺族にて校正を実施いたします。

## 菜の花

じゅんこのときめき歳時記

みなさん、今年の冬は寒かったですね。体調は大丈夫ですか。立春を過ぎて、少し暖かくなると外に出たくなりますね。いつも、近くの畑一面に、黄色い菜の花が緑の中に沢山咲いて、清々しい気持ちになります。

そういえば、菜の花といっても、アブラナ、コマツナ、ハクサイ、ダイコンなどの花は、みな菜の花というそうです。調べてみると、菜の花は、アブラナ科の野菜の花のことをまとめていうと書いてありました。お父さんに聞いたら、昔は、お仏壇のお灯明は、みな菜種油を使って

いたと言っていました。菜種油は、アブラナの種類から作ったものらしいです。アブラナは、どちらかというとおひたしにして食べるものだと思います。

一望の  
菜の花の風 眼鏡押す  
桜井博道

